



## 事前評価個表

事業名	復旧治山	事業計画期間	平成17年度～平成22年度				
事業実施地区名 (都道府県名)	北山 (愛媛県)	事業実施主体	愛媛森林管理署				
事業の概要・目的	<p>当地区は、愛媛県東部に位置し、地形が急峻で脆弱な地質であり、平成16年の台風により山腹崩壊が発生し、崩壊土砂の流出や不安定土砂が多量に堆積している、このため、崩壊地の復旧整備等を実施し、水土保持機能の維持、向上を図るものである。</p> <p>主な事業内容</p> <table style="margin-left: 40px;"> <tr> <td>溪間工</td> <td>9基</td> </tr> <tr> <td>山腹工</td> <td>2.03HA</td> </tr> </table>			溪間工	9基	山腹工	2.03HA
溪間工	9基						
山腹工	2.03HA						
費用対効果分析	総費用(C)	228,916千円					
	総便益(B)	水源かん養便益	37,355千円				
		山地保全便益	千円				
		環境保全便益	千円				
		災害防止便益	1,469,586千円				
		計	1,506,941千円				
	分析結果(B/C)	6.58					
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 山腹崩壊地、溪床に堆積する不安定土砂及び森林の荒廃状況から、放置すれば崩壊地の拡大等が懸念され、水土保持機能の維持、向上のためには当事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性： 当該事業の実施により、崩壊地の復旧や溪床に堆積する土砂の安定が図られ、水土保持機能が維持、向上されることから有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地に応じた最も効果的かつ効率的な工種、工法で検討されており、また、費用以上の効果も期待できることから、効率性は認められる。</li> </ul>						

## 事前評価個表

事業名	生活環境保全林整備	事業計画期間	平成17年度～平成20年度								
事業実施地区名 (都道府県名)	黒尊山 (高知県)	事業実施主体	四万十森林管理署								
事業の概要・目的	<p>当地区は、高知県西部、四万十川上流域に位置し、豊かな森林空間を活用しての学習や憩いの場として利用されており、保安林における環境保全機能の高度発揮、充実を図ることと併せて、過密化した保安林を整備することにより公益的機能を発揮するため、事業を実施するものである。</p> <p>主な事業内容</p> <table border="0"> <tr> <td>森林整備</td> <td>474HA</td> <td>溪間工</td> <td>2基</td> </tr> <tr> <td>歩道整備</td> <td>4.5Km</td> <td>作業施設</td> <td>2基</td> </tr> </table>			森林整備	474HA	溪間工	2基	歩道整備	4.5Km	作業施設	2基
森林整備	474HA	溪間工	2基								
歩道整備	4.5Km	作業施設	2基								
費用対効果分析	総費用(C)	187,383千円									
	総便益(B)	水源かん養便益	1,135,398千円								
		山地保全便益	千円								
		環境保全便益	千円								
		災害防止便益	2,454,873千円								
		計	3,590,271千円								
	分析結果(B/C)	19.16									
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 森林のもつ生活環境、保健休養等の環境保全機能に対する高度発揮が強く求められていることから当事業の実施は必要である。</li> <li>・有効性： 当該事業の実施により、保安林の機能を多目的かつ高度に発揮できることから有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地に応じた最も効果的かつ効率的な工種、工法で検討されており、また、費用以上の効果も期待できることから、効率性は認められる。</li> </ul>										

様式1

整理番号 1

治山事業費用対効果集計表

事業名：復旧治山  
 施行箇所：北山

都道府県名：愛媛  
 (単位:千円)

大区分	中区分		評価額 B (千円)	備考
水源かん養便益	洪水防止便益	a-1	5,155	
		a-2	13,026	
	流域貯水便益	b-1	2,345	
		b-2	5,925	
	水質浄化便益	c-1	3,092	
		c-2	7,812	
山地保全便益	土砂流出防止便益	d-1	92,364	92,364 + 233,402 + 14 = 325,780 < 1,469,586 適用しない
		d-2	233,402	
	土砂崩壊防止便益	e	14	
環境保全便益	炭素固定便益	f	0	
	酸素供給便益	g	0	
	気候緩和便益	h	0	
	騒音軽減便益	i	0	
	飛砂軽減便益	j	0	
	風害軽減便益	k	0	
	大気浄化便益	l		
	霧害軽減便益	m	0	
	火災防備便益	n	0	
	漁場保全便益	o		
	生物多様性の保全便益	p		
	保健休養便益	q	0	
災害防止便益	山地災害防止便益	r-1	1,469,586	適用
	なだれ災害防止便	r-2	0	
	潮害軽減便益	r-3	0	
	海岸侵食防止便益	r-4	0	
便益合計 (B)			1,506,941	
事業費 (C) (様式2にて算出)			228,916	千円
費用対効果分析	$B \div C = \frac{1,506,941}{228,916} = 6.58$			

様式1

整理番号 2

治山事業費用対効果集計表

事業名：生活環境保全林整備  
 施行箇所：黒尊山

都道府県名：高知  
 (単位:千円)

大区分	中区分		評価額 B (千円)	備考
水源かん養便益	洪水防止便益	a-1	0	
		a-2	565,009	
	流域貯水便益	b-1	0	
		b-2	246,009	
	水質浄化便益	c-1	0	
		c-2	324,380	
山地保全便益	土砂流出防止便益	d-1	0	0 + 10,492 + 0 = 10,492 < 2,454,873
		d-2	10,492	
	土砂崩壊防止便益	e	0	適用しない
環境保全便益	炭素固定便益	f	0	
	酸素供給便益	g	0	
	気候緩和便益	h	0	
	騒音軽減便益	i	0	
	飛砂軽減便益	j	0	
	風害軽減便益	k	0	
	大気浄化便益	l		
	霧害軽減便益	m	0	
	火災防備便益	n	0	
	漁場保全便益	o		
	生物多様性の保全便益	p		
	保健休養便益	q	0	
災害防止便益	山地災害防止便益	r-1	2,454,873	適用
	なだれ災害防止便	r-2	0	
	潮害軽減便益	r-3	0	
	海岸侵食防止便益	r-4	0	
便益合計 (B)			3,590,271	
事業費 (C) (様式2にて算出)			187,383	千円
費用対効果分析	$B \div C = \frac{3,590,271}{187,383} = 19.16$			